

假名漢  
 大傳十七編



GOKan: (No. 016)  
 Kanayomi Hakken D  
 Part 4. Book 17--

~ 13  
 3701  
 15



門 へ 13  
號 3701  
卷 15

辛亥の冬十一月の頃短景と夜不繼て颯々たる松風の音と文として書讀む字  
窓小訪ひ来る者へ祖父の時より舊識なる文溪堂の主人未意甚麻と尋  
ゆ小四五年前の頃より這書費が刊行する國字讀大傳の合巻へ彼麒麟尾才  
附く青蠅を千里の外まで行る現唐山る下俚巴人其曲高からざる故小  
和考ののり衆る是策子由亦その類也巧致の文の刪去り推蒙の爲よ  
解一易を言を然る小是抄録せし者いさう故のありと本編より後々  
先予の抄録と賜と乞ふ祖父の作と抄録するの面目ある小似れども拙於と  
いふとせんと固辞再三及ぶも聽れども熟考する小舊識といひその懇情を  
強顔く推辞むも本意あるわがやうや小兼引の燈下小亮する筆を添て夫々  
斯と曾子と世の朝も三省せし恥赫やうの序びた白地小誌まるん  
嘉永五壬子春稿成同癸丑初春發市 鳳簫菴琴童識

大傳二編

一太郎



羽黒 松風  
極さ 虎  
山 神  
あつ ぼん  
あつ ぼん

東太

団五

ノ作



赤岩一角 澁鬼

仇 恨  
まへん 家の  
くまの 玉の  
所 天の つか

節婦

雛衣

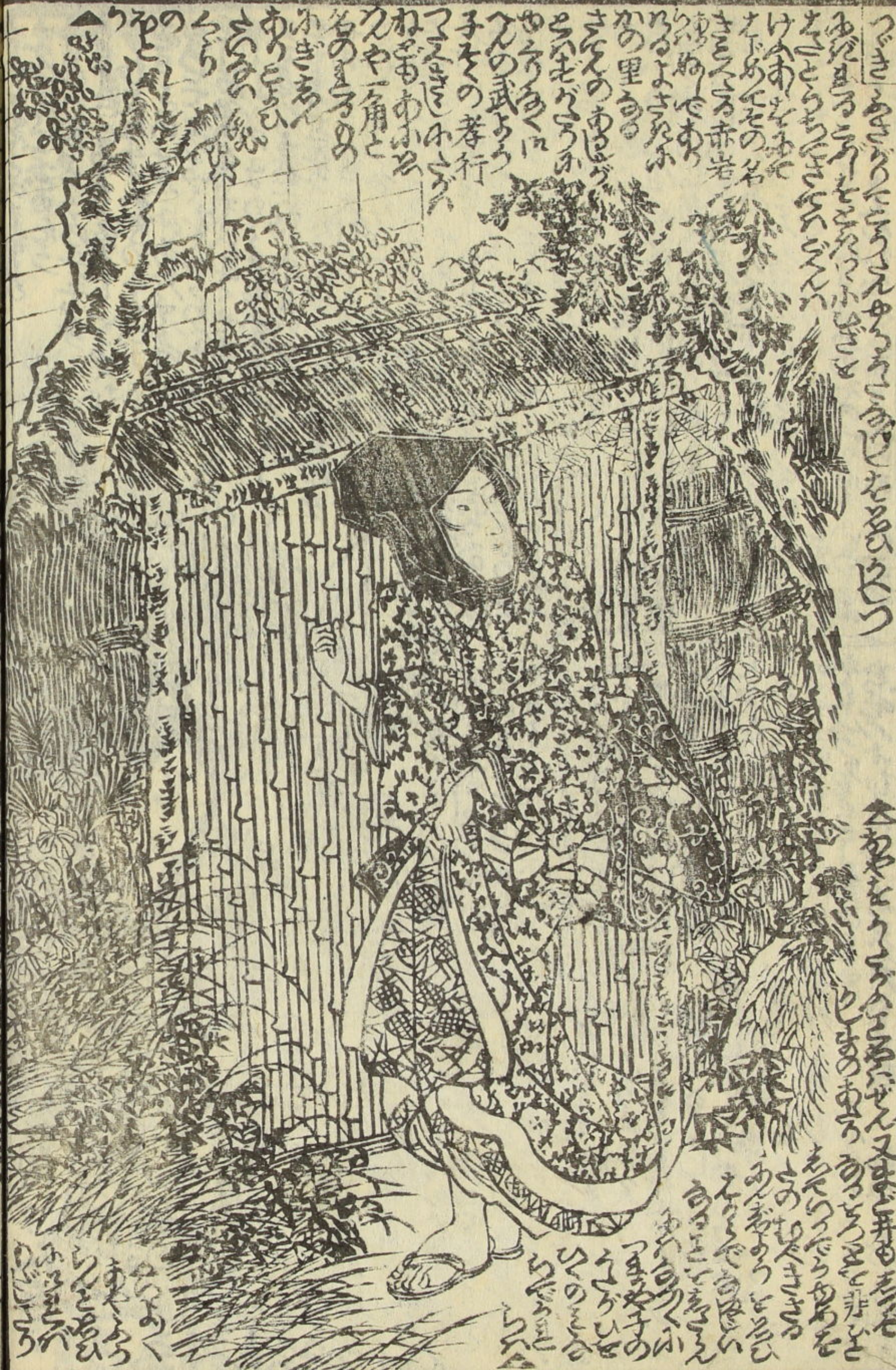






つぎ... (vertical text column on the right)

木... (vertical text column on the right)



あ... (vertical text at the top of the illustration)

あ... (vertical text at the bottom of the illustration)

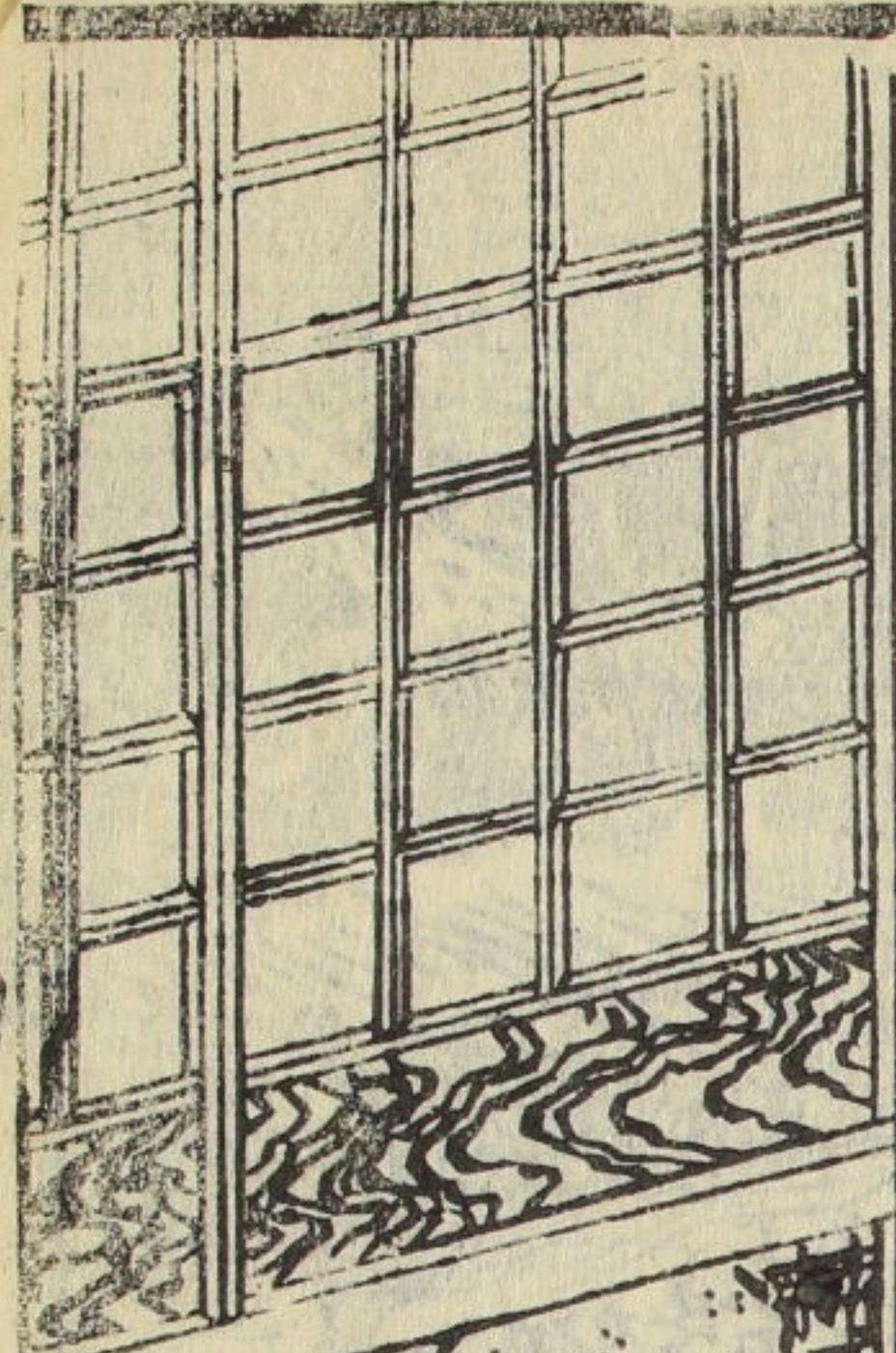
あ... (vertical text on the left side of the illustration)



あ... (vertical text surrounding the illustration)



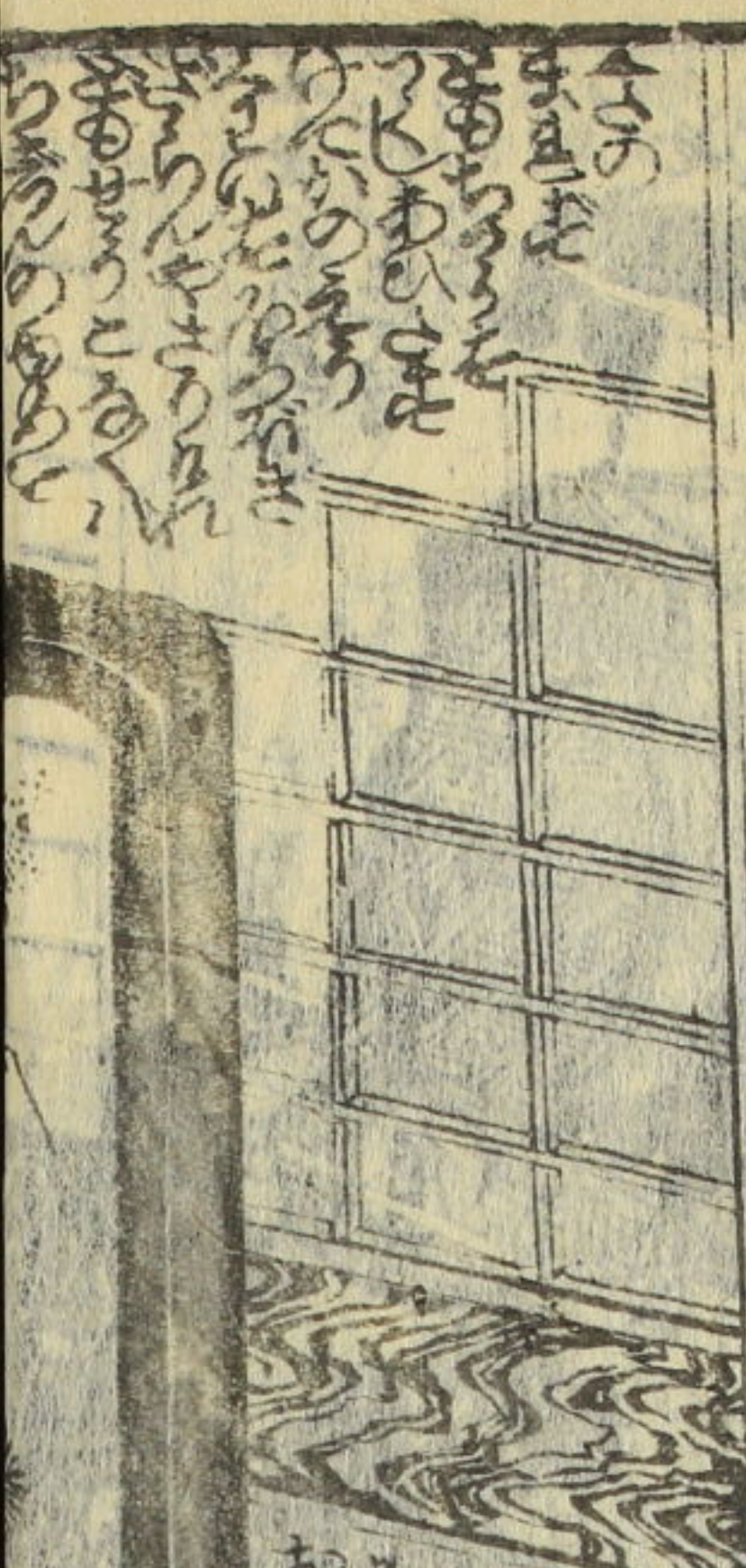
あ... (vertical text at the bottom of the illustration)



この世の  
 ことごとく  
 ありては  
 又あつた  
 げかき  
 かの  
 ひさし  
 げん  
 その下



この世の  
 ことごとく  
 ありては  
 又あつた  
 げかき  
 かの  
 ひさし  
 げん  
 その下



この世の  
 ことごとく  
 ありては  
 又あつた  
 げかき  
 かの  
 ひさし  
 げん  
 その下



この世の  
 ことごとく  
 ありては  
 又あつた  
 げかき  
 かの  
 ひさし  
 げん  
 その下







Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustrations on the right page.





# 琴童鈔録



# 國芳画

# 假名讀八犬士傳

自初編

至二十六編

昔いしし去年火災あつたて  
 御焼七我誓くは編し出  
 文漢堂之抄ふんふん編  
 焼失の分再版は届ぬ様素出  
 山松  
 元治元年日誌之巻  
 常世の唐書抄

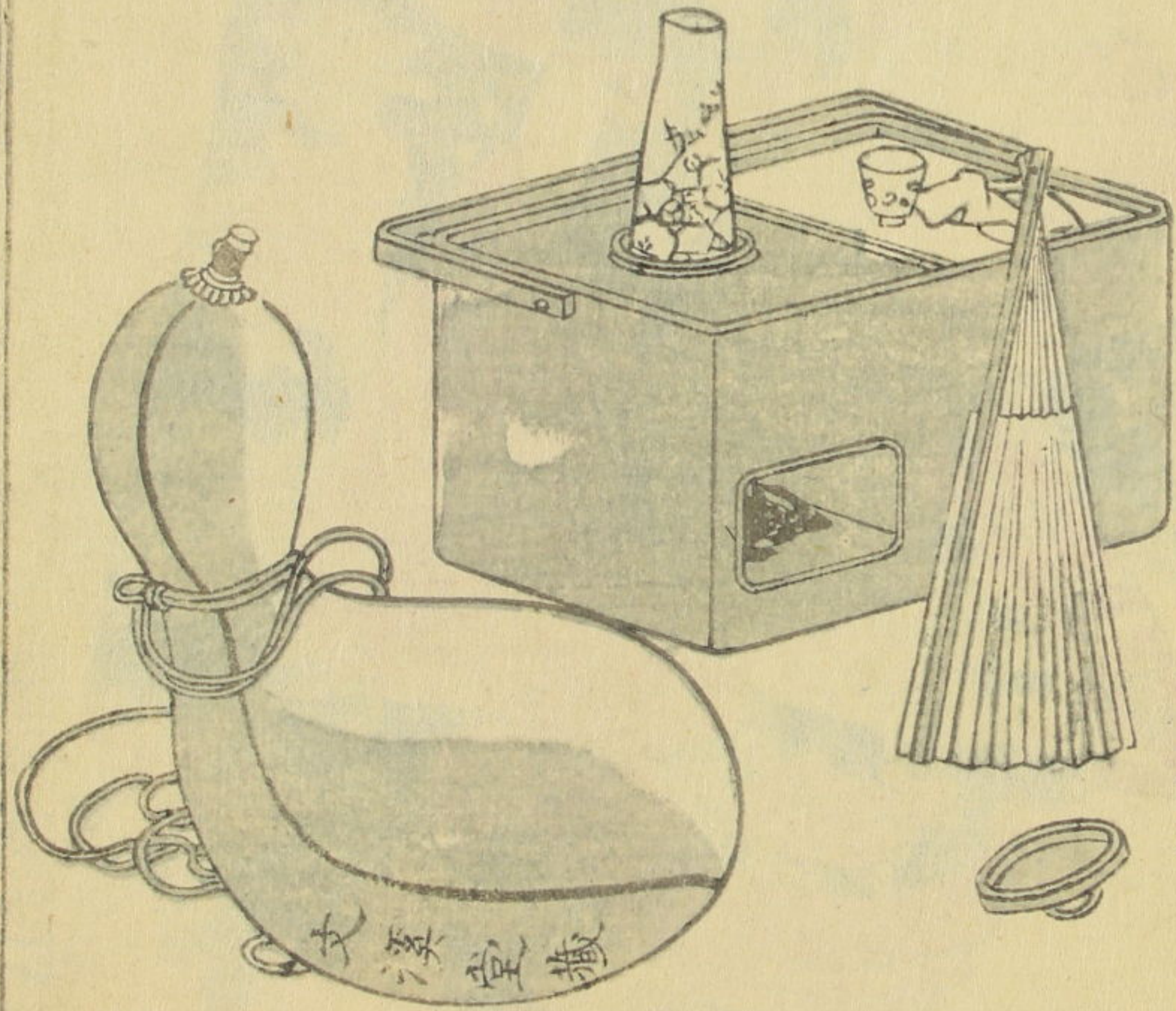
此の書は... 八犬士傳... 假名讀... 自初編... 至二十六編...  
 此の書は... 八犬士傳... 假名讀... 自初編... 至二十六編...  
 此の書は... 八犬士傳... 假名讀... 自初編... 至二十六編...

曲亭琴堂作  
一留香閣芳煙

倣名續

八犬傳

十七卷



廿九卷





曲  
今  
冬  
幸  
作  
一  
重  
台  
向  
國  
寺  
也

十七  
編  
下



大  
傳

十七  
編  
上











あやうきおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も

あやうきおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も

あやうきおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も

あやうきおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も



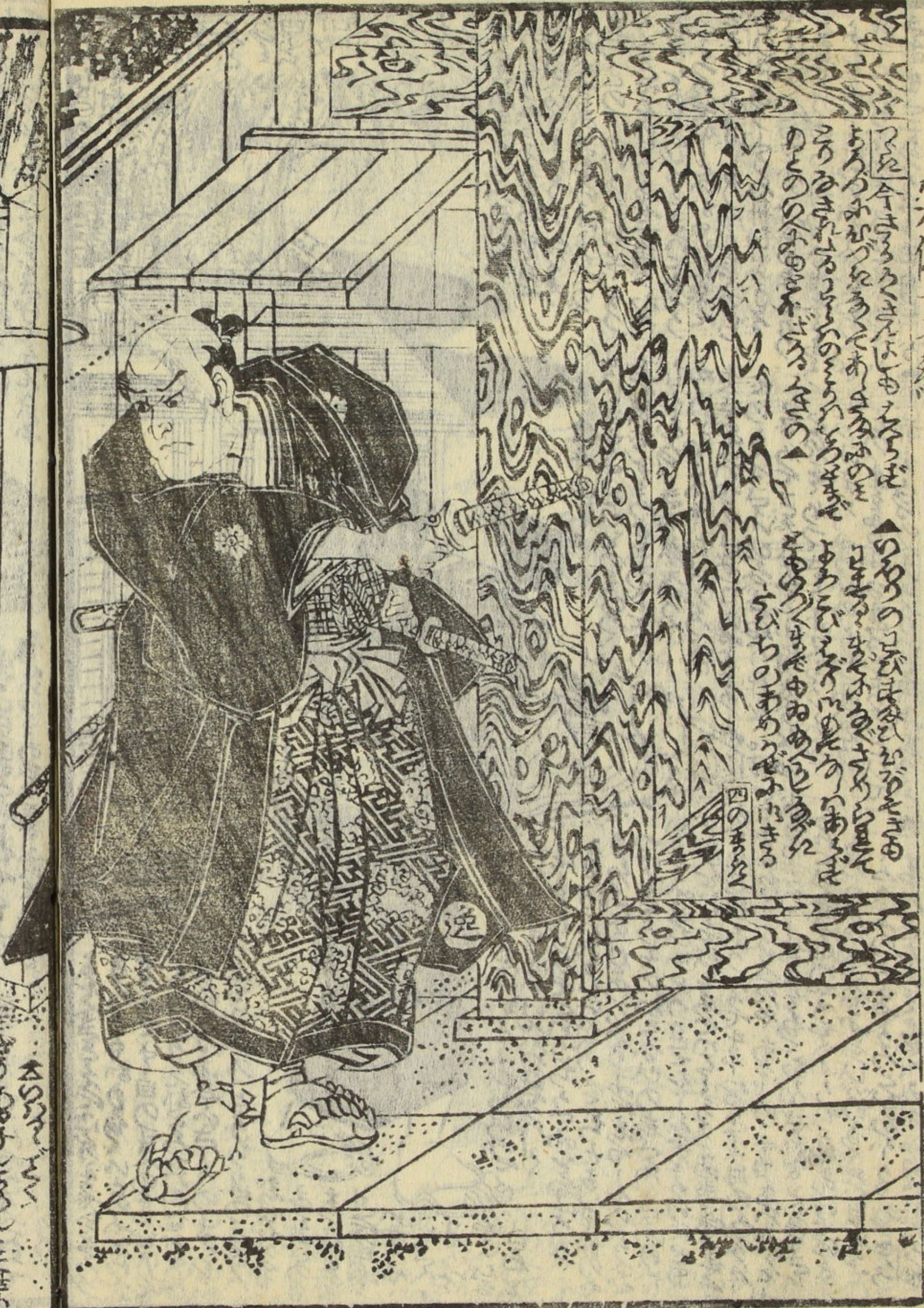
あやうきおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も  
あつたおぼろ酒の味も



つる今まらうらまゝよもくもくぞ  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつる



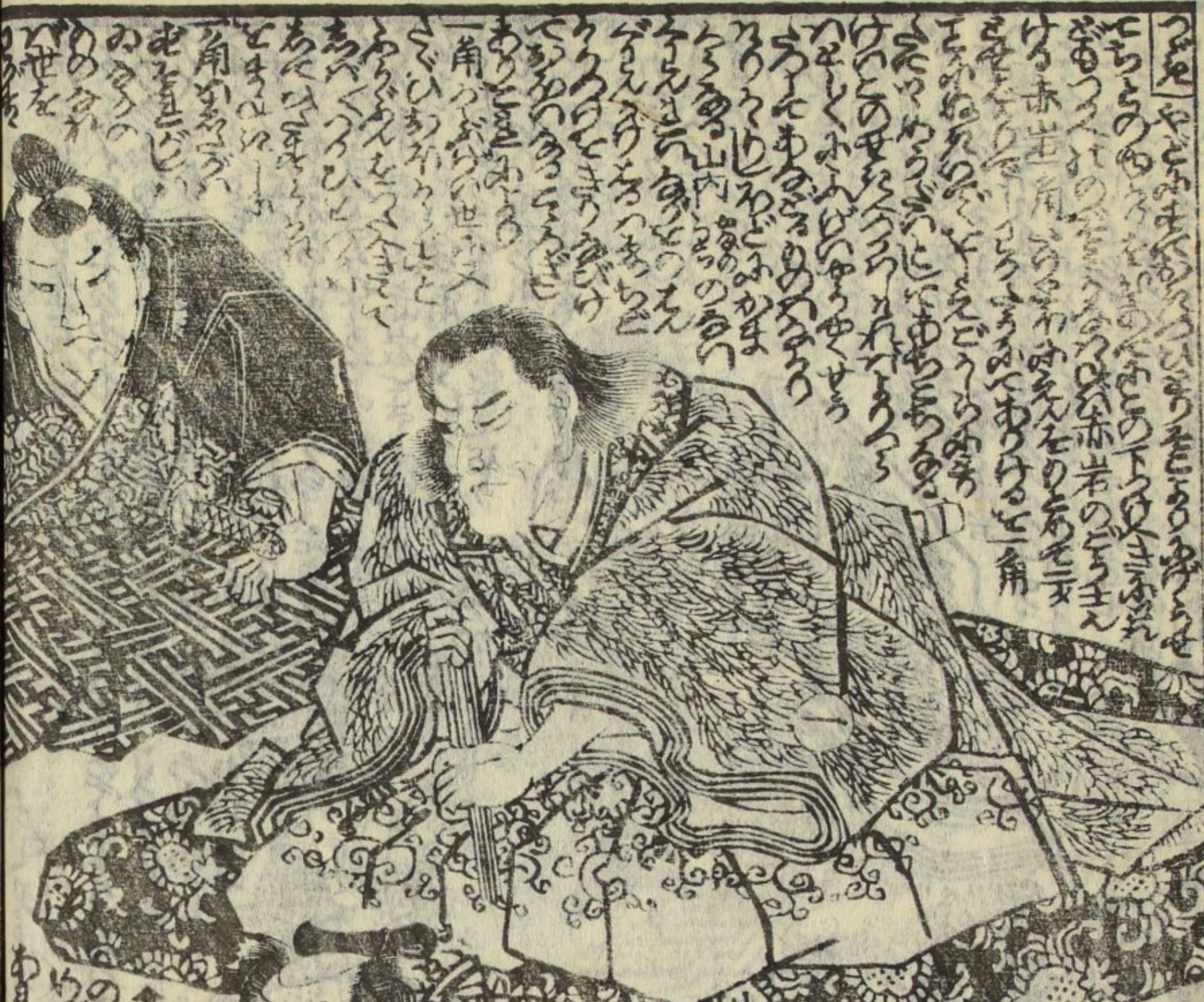
つるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる  
つるつるつるつるつるつるつるつるつる





ついでに... 赤岩の... 角の... 世の...



その... 角の... 世の... 赤岩の...



その... 角の... 世の... 赤岩の... 東...



その... 角の... 世の... 赤岩の... 飛...



つた... 二角半... 舟山... 舟山... 舟山...

舟山... 舟山... 舟山... 舟山... 舟山...

舟山... 舟山... 舟山... 舟山... 舟山...

舟山... 舟山... 舟山... 舟山... 舟山...







一勇齋國芳画



鳳簫菴琴童鈔録

Vertical columns of handwritten text surrounding the illustration.

Vertical columns of handwritten text below the illustration.

七葉四郎 吾未娘

志心傳

四十五編 四十六編 四十七編

柳亭種彦作 一勇齋芳繪画

八代傳

廿八編 廿九編 三十編

假名垣魯文録 朝霞樓芳繪画

柳春秋色櫻

山崎有人作 一勇齋芳繪画

地本堂紙問屋澤田佐賀町廣岡屋幸助版



文運の盛衰ハ世道の汚隆ハ係多ク有之矣 御代の徳澤ハ文運  
 年々小盛昌カニ 皇國字ハ漢字ヨリ人小ニシテ其盛衰ノハハカク鳴呼  
 然レモ 辨史ノ行ケルハ 亦然リ 戲墨ハ 婦幼ノ玩物ニシテ其時好ムルニ  
 盛衰大ニ異ル 辨史ノ行ケルハ 文化年間ニ直盛リトシ 支政ノ中葉トシテ  
 作ヤ衰ヘテハ かくの吾ノ尊一トシ 類シテ 識ルモ有ラズク 笑カモ有ラン  
 こゝ曲亭ノ一作ノ 讀本ハ 合卷ノ未ダ 絶筆ノ至ルニ 流行ト 始終一  
 如ク 天保ノ末年ガ 人情ヲ 唱ヘテ 猥褻ノ 策子ノ 衰ヘテ 世ト 觀ト 情ハ 極  
 々者達モ 趣向ハ 樽底ノ 小ハクシ 祖父ノ 讀本ト 剽竊ト 模擬ト 為ルニ  
 昨今ハ 其ノ文ヲ 縮ク 國圖ノ 呑ノハ 五五種ノ 承生ノ 作多ク 俗ノハ 吾  
 亦 猶ヒ 飲リテ 醉ムニ 去歲ハ 書賈ノ 哄誘ト 爲テ 各々 大傳ヲ 抄録シテ 予  
 不 亦 猶ヒ 毛ハ 亦 亦 太 氣ハ 口ノ 小 廻ラ 筆ヲ 走ラ 其ノ 矣

嘉永五子年春編成同六五年初春新刻 鳳簫菴琴子童誌 豊

天保八編



うき  
世々

鏡  
鏡

かき  
かき

押  
うき

鏡  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき



空  
空

娘  
濱路



打  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき

かき  
かき



泡  
雪

奈  
四郎



さるるに大なる人々のうちをとりて... 角をもちて... 四入りのうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて...



山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて...



山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて...

さるるに大なる人々のうちをとりて... 角をもちて... 四入りのうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて...



山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて... 山の上をとりて... 大なる人々のうちをとりて...





Handwritten Japanese text in the upper left quadrant, written in a vertical column.

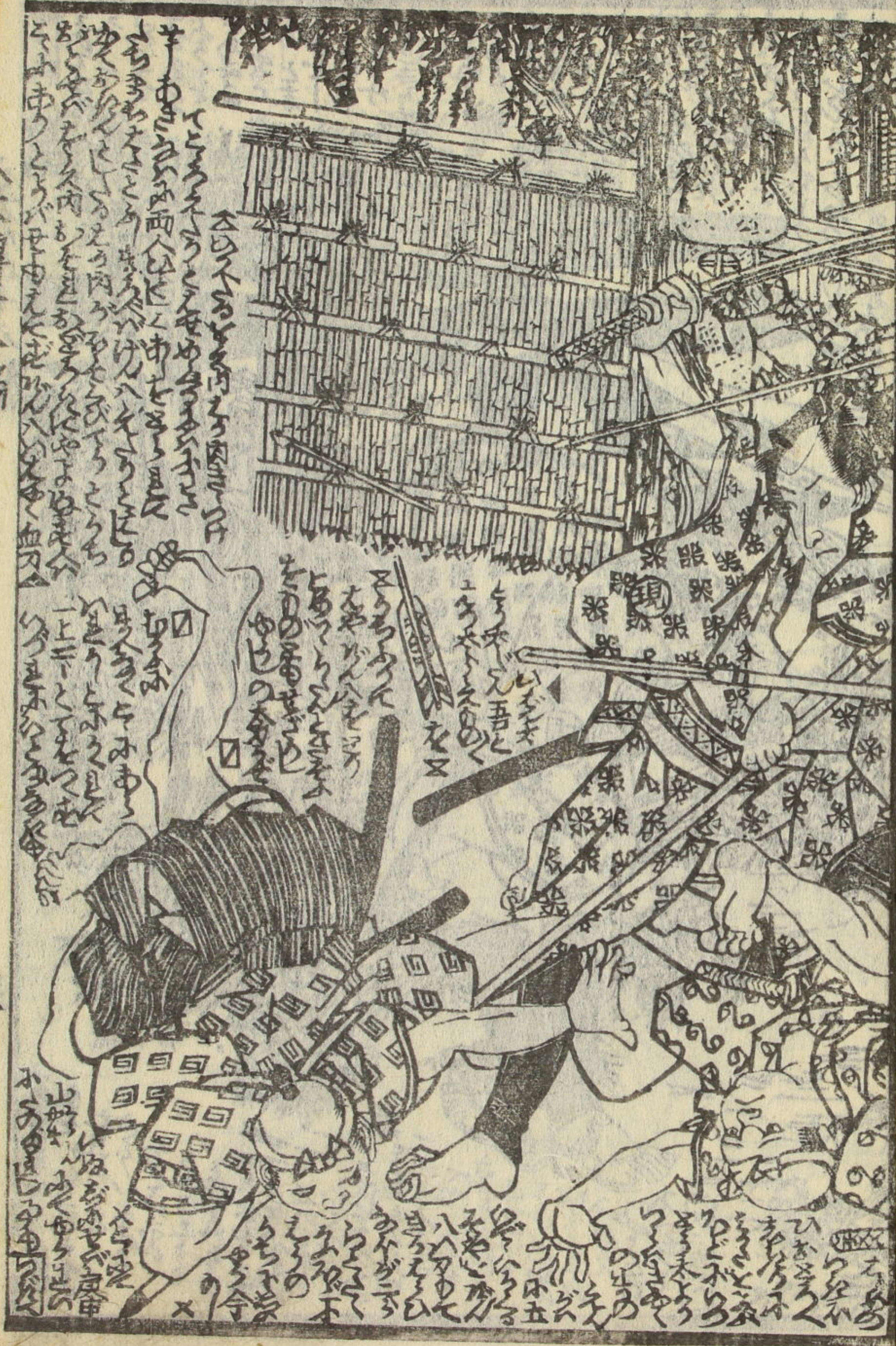
Handwritten Japanese text in the lower left quadrant, written in a vertical column.

Handwritten Japanese text in the upper right quadrant, written in a vertical column.

Handwritten Japanese text in the lower right quadrant, written in a vertical column.

Vertical text on the far left edge of the page.

Small vertical text or mark on the left side of the page.



山崎の... 一上...

山崎...

山崎...





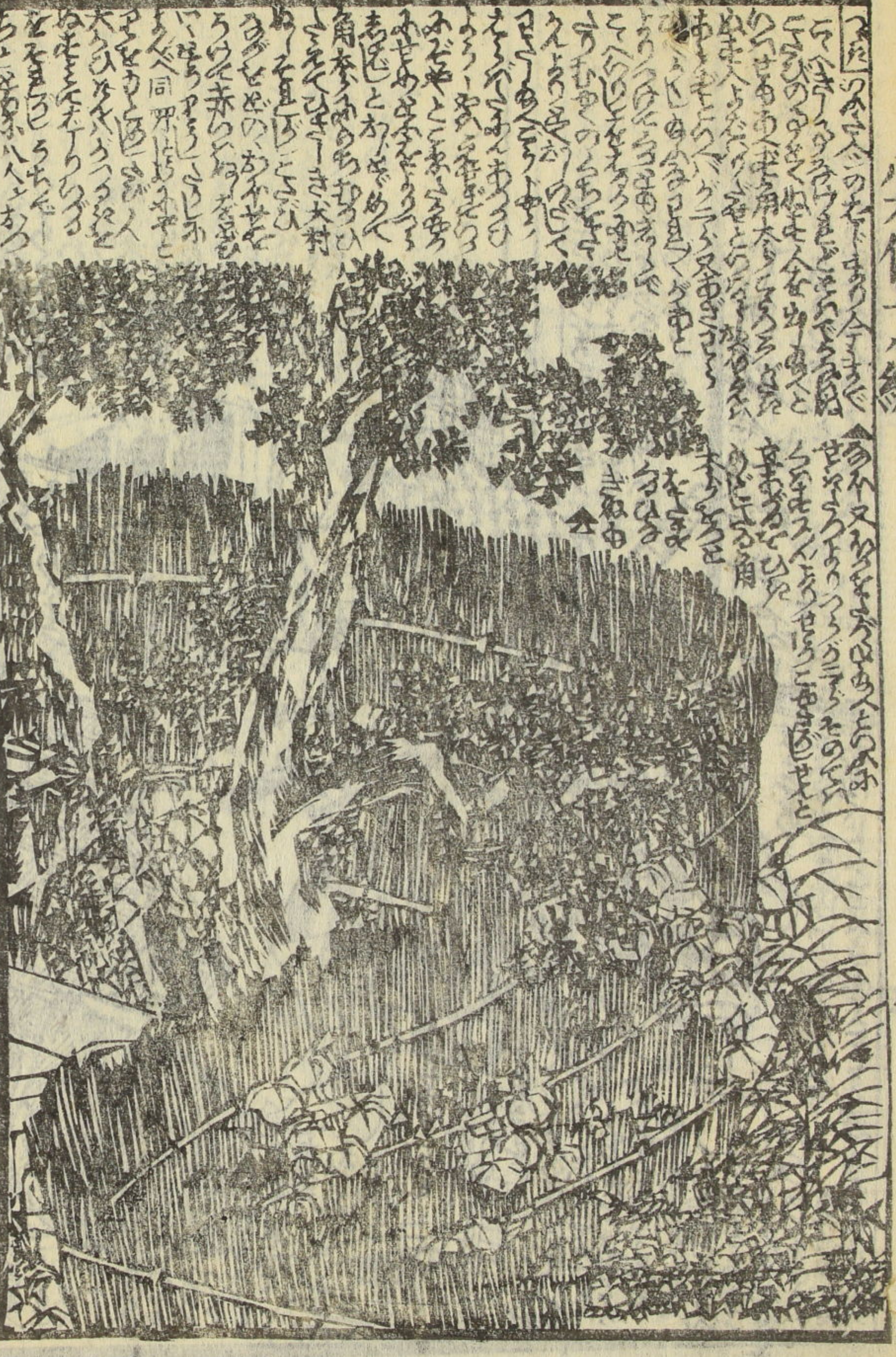




夫の老い...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...

夫の老い...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...

天守門ノ巻



夫の老い...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...

夫の老い...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...  
 夫の...  
 其の...

天守門ノ巻

角 竹 竹 竹 竹  
その 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹



竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹

角 竹 竹 竹 竹  
その 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹



竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹  
竹 竹 竹 竹 竹



琴童抄録

Handwritten text in the upper right section, likely a preface or introduction to the '琴童抄録' section.



Handwritten text in the lower right section, possibly a commentary or a specific entry related to the '琴童抄録'.

Handwritten text in the upper left section, likely a preface or introduction to the '國芳画' section.

Handwritten text in the lower left section, possibly a commentary or a specific entry related to the '國芳画'.

志ぬひ禪

五拾四編ヨ柳亭種彦作  
六十編テ一惠齋芳幾画

両面織花田物語

初編ヨ同  
五編迄同  
近刻同  
画作

假名續八大傳

三十一編ヨ假名垣魯文録  
三十五編テ朝霞樓芳幾画

古今 能優 似顔大全

故豊國公羽筆  
大錦百三香續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記  
百番續惠齋芳幾画

園芳園繪

琴堂抄錄



油亭 琴音抄 祿  
一勇高 國芳 卷五

十八番  
八世 傳  
如

十八番 下

十八番 上



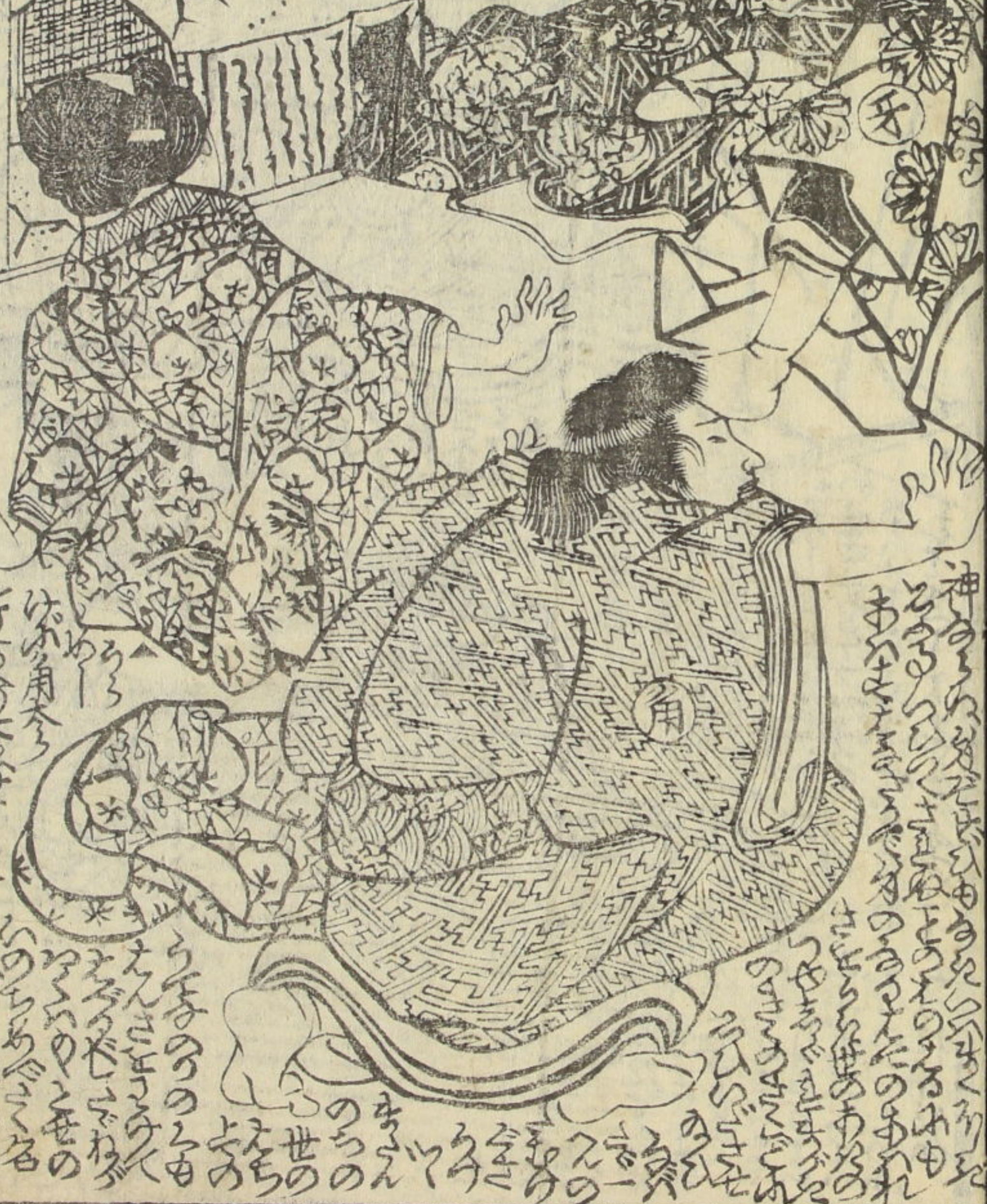


ふき角木... 今... 角...



今... 角... 世...

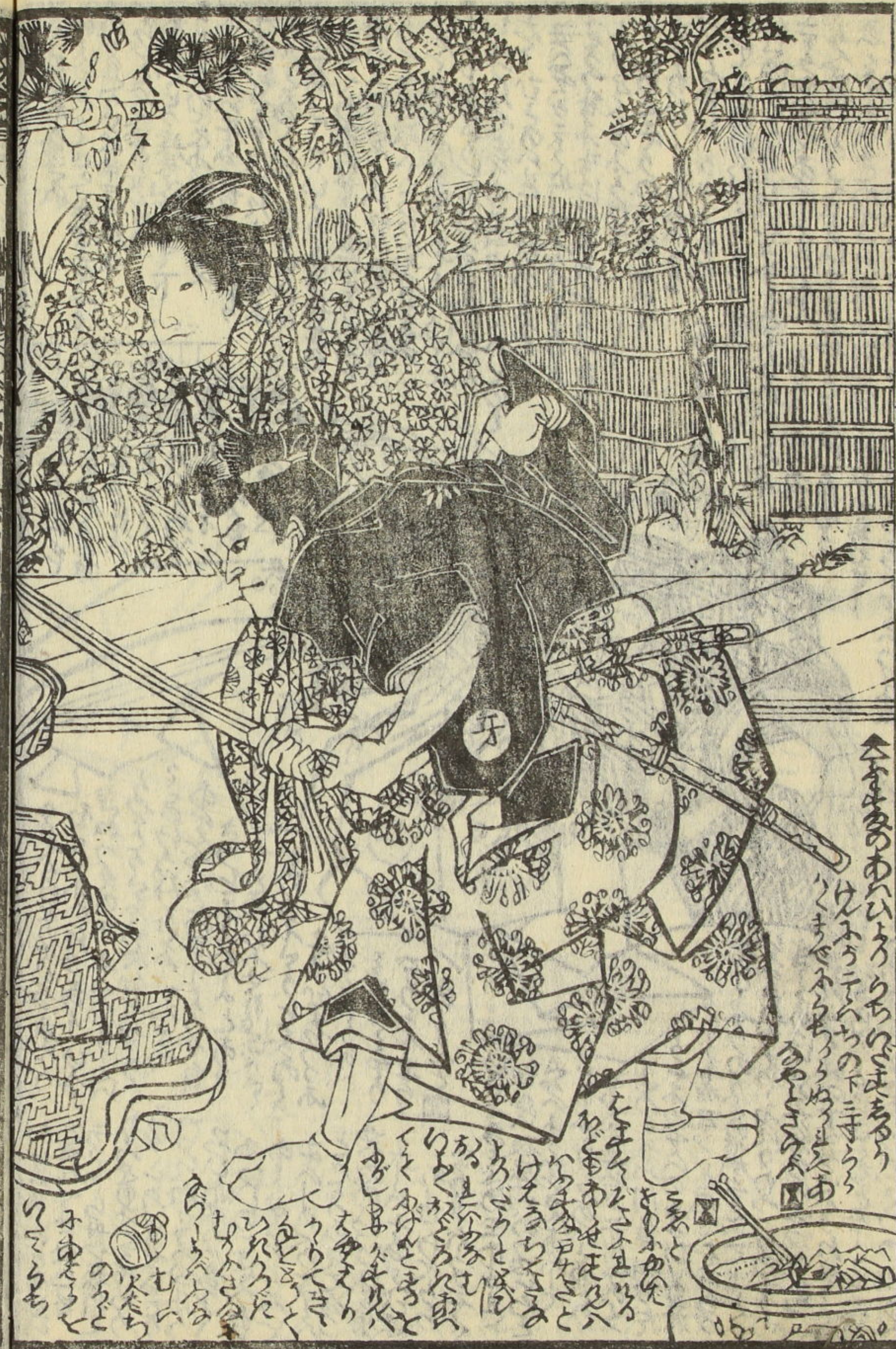
今... 角... 世...



今... 角... 世...







▲ままのあひかりちのまま  
 けんろてんちの下三手うら  
 りまをあらわすはまわ  
 ちまのま

ままのあひかりちのまま  
 けんろてんちの下三手うら  
 りまをあらわすはまわ  
 ちまのま



ままのあひかりちのまま  
 けんろてんちの下三手うら  
 りまをあらわすはまわ  
 ちまのま

ままのあひかりちのまま  
 けんろてんちの下三手うら  
 りまをあらわすはまわ  
 ちまのま



此の御座り申すは御座り申すは  
 大の御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは

夜に申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは

此の御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは



此の御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは

此の御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは

此の御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは  
 御座り申すは御座り申すは

大傳十八編

十四

大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき  
 大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき  
 大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき



大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき  
 大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき  
 大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき

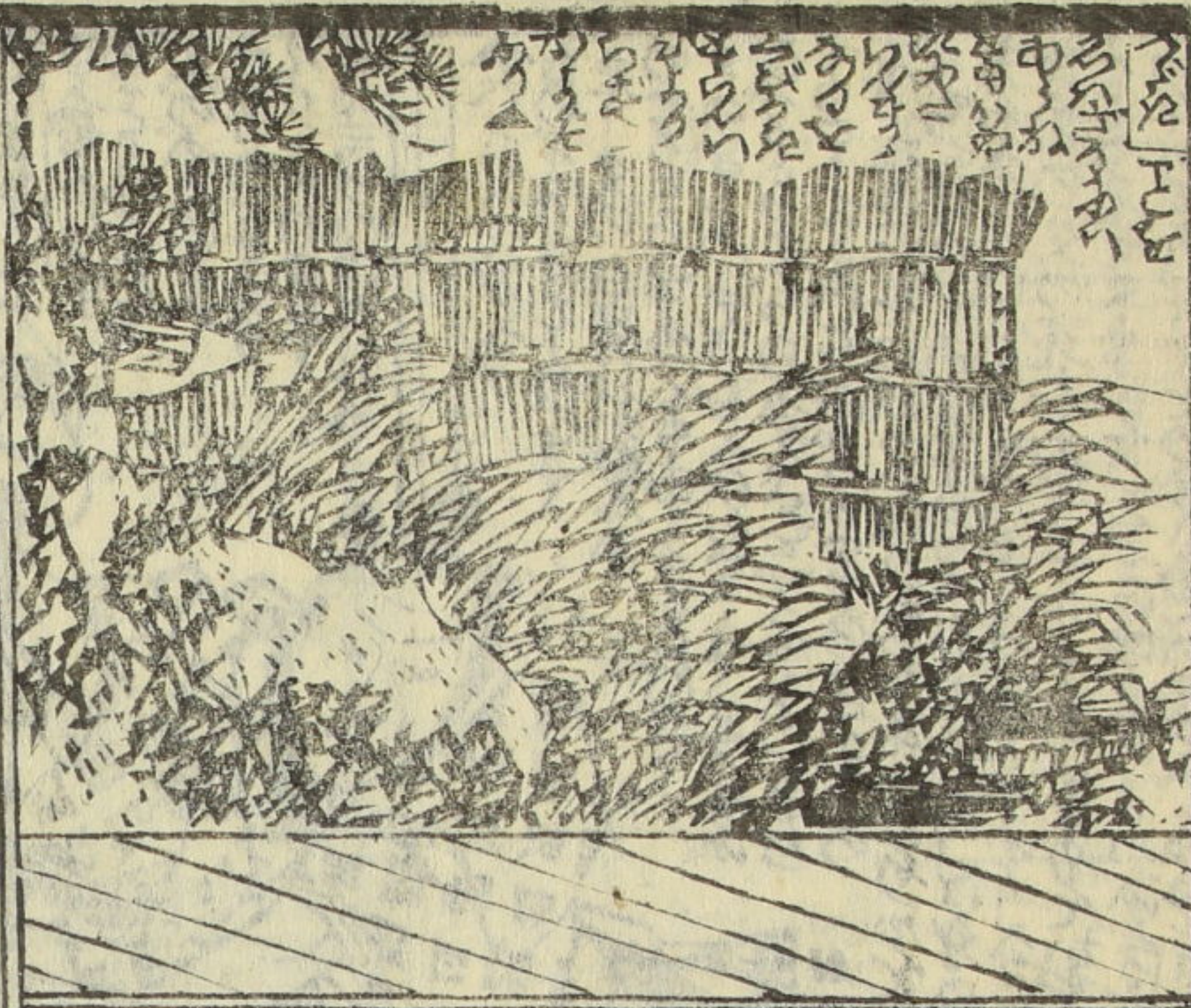


大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき

大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき

大川大田大山大江らの五  
 天去らままおもむき





Handwritten text in vertical columns, likely a chapter heading or introductory text. The characters are in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, positioned above the illustration of the man in the patterned kimono.



Handwritten text in vertical columns, positioned to the left of the man's illustration.

Handwritten text in vertical columns, positioned to the right of the man's illustration.

Large block of handwritten text in vertical columns at the top of the left page, above the illustration of the man and woman.



Vertical columns of handwritten text on the far left edge of the page, running parallel to the illustration.



夫は「在りて...」と云ふ事、山は...  
 夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...



夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...

夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...



夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...

夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...  
 夫れは...の事、初め...



十九編のそとあつち  
 先板城より筆工の  
 先板城より筆工の  
 先板城より筆工の

消滅のつら  
 解脱のつら  
 解脱のつら

井戸の  
 井戸の  
 井戸の



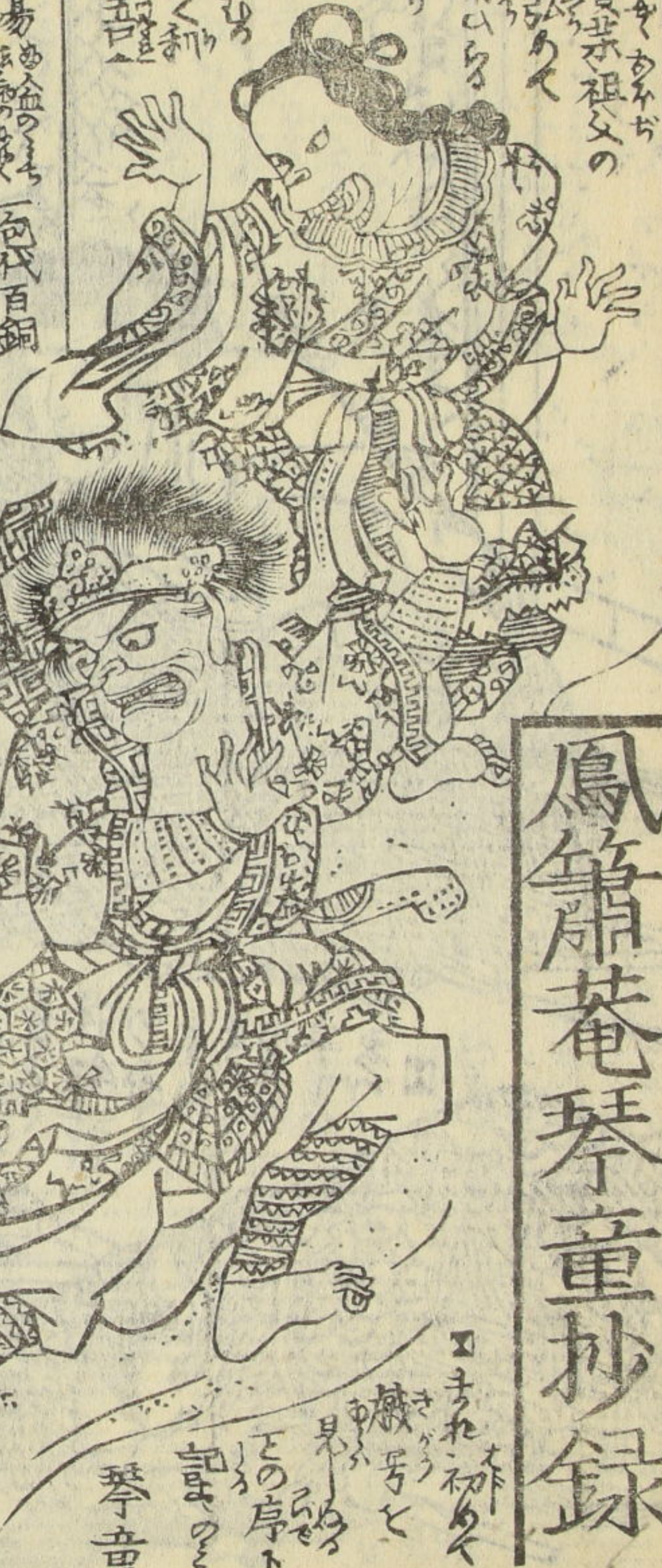
山神の  
 土地の  
 土地の

角の  
 角の  
 角の



家傳神女湯  
精製奇應丸  
熊胆黑丸  
婦人灰虫の妙藥  
制名藥本家  
弘竹

家傳神女湯  
精製奇應丸  
熊胆黑丸  
婦人灰虫の妙藥  
制名藥本家  
弘竹



鳳簫菴琴童抄録

一勇齋國芳画

家傳神女湯  
精製奇應丸  
熊胆黑丸  
婦人灰虫の妙藥  
制名藥本家  
弘竹

名譽の義賊ハ  
柿木金輔  
名譽の孝女ハ  
枝豆於市

浪輝黄金鯁

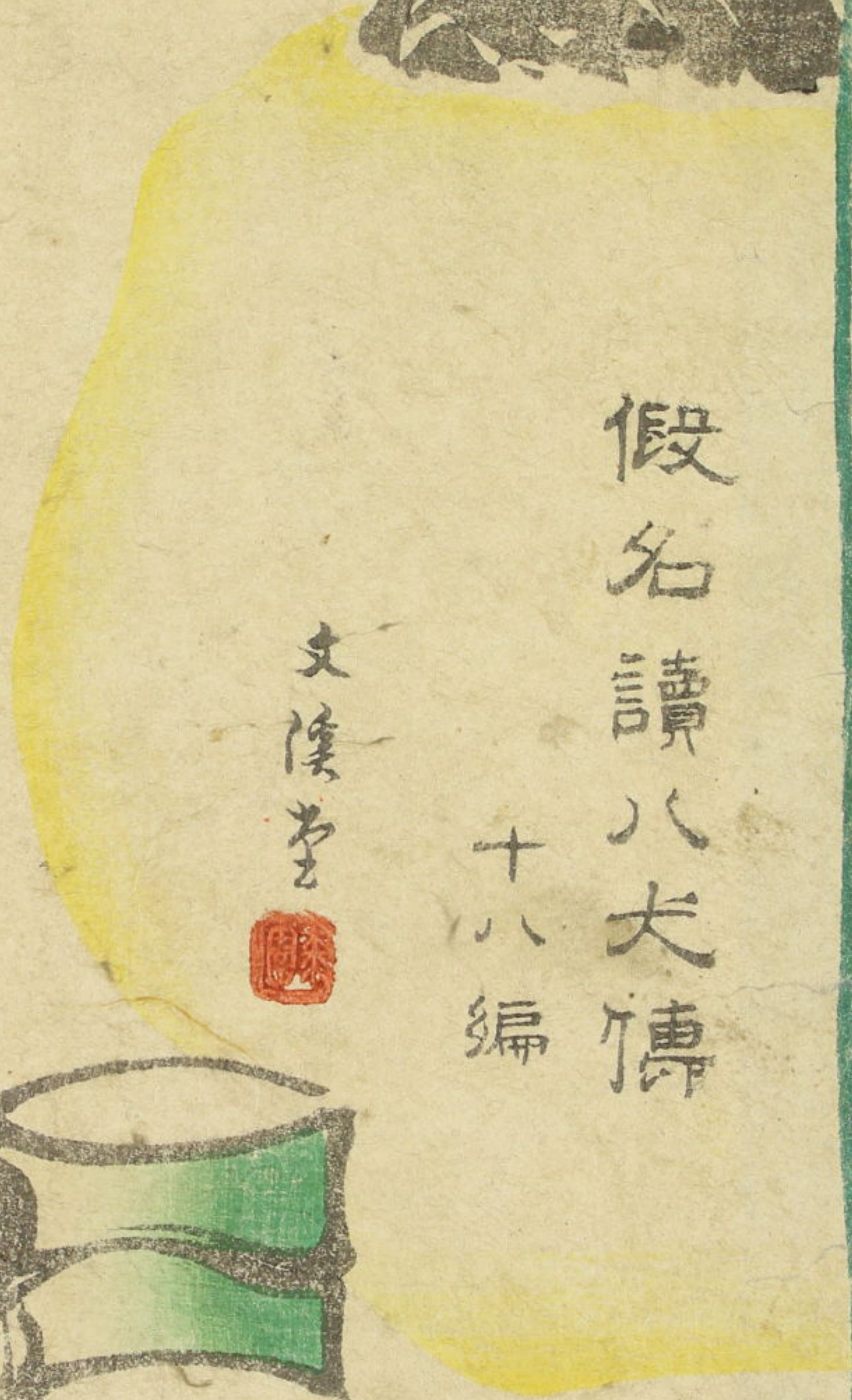
瀬川 如泉  
山々亭 有泉  
惠齋 芳泉  
梅素齋 玄魚  
松湖 交魚  
假名垣 魯文  
河竹 其水

一對男の縁因て戯作劇場を二様竹林多々七軒人が二回五葉を持さりの  
合作全備の三編丹 初編 其水作同 有人作同 交來作  
同 如泉作 二編 其水作同 有人作同 交來作  
三編 其水作同 有人作同 交來作  
定ぬ二且小筆カを流し海當藏板のあらぬ以同様御高評を希ふ

北草紙回座

江戸深川伏賀町  
廣岡屋幸助梓





假名讀八丈傳

十八編

文隆堂



由亭吟產少録  
一冊 廣國寺藏

